

平成21年度第3回
練馬区における「放課後子どもプラン」
運営委員会会議録

平成22年2月22日

平成21年度第3回練馬区における「放課後子どもプラン」運営委員会

平成22年2月22日（月）午後6時30分から
練馬区役所本庁舎5階 庁議室

次 第

開 会

- 1 第二次練馬区放課後子どもプラン（案）……………資料1・2
- 2 今後のスケジュールについて
- 3 その他

閉会

(資料)

- 資料1 「第二次練馬区放課後子どもプラン」(案)
- 資料2 「第二次練馬区放課後子どもプラン」(案) 新旧対照表
- 資料3 「児童放課後等居場所づくり(ひろば)事業実績 [平成19～21年度]」

○事務局　　本日はお寒い中お集まりいただきましてどうもありがとうございます。私は事務局を務めております計画調整担当課長大塚でございます。本日はよろしくお願いたします。いつもですと生涯学習部長が挨拶をするところですが、本日は不在ですので省略させていただいて、早速進行させていただきます。ただいまから、平成 21 年度第 3 回「練馬区における放課後子どもプラン」運営委員会を開催いたします。まず、事務局から出席状況の報告をさせていただきます。

○事務局　　それでは本日の出席状況のご報告をさせていただきます。1 名欠席のご連絡をいただいております。現在、副座長はお見えになっておりませんので、こちらへ向かっているものと思われます。(副座長は後刻到着)現在 12 名が出席されております。

○事務局　　それでは委員会を進行させていただきます。座長お願いします。

○座長　　座長を務めております土田です。本日が運営委員会最後の日となります。そこでこちらでの最終的な結果を出すということになります。お手元の次第にありますけれども、本日資料 1, 2 を使いますが、皆さん郵送されたものをお持ちでしょうか。では皆さんお持ちでございますので、次第に従って資料 1, 2 を中心に放課後子どもプラン (案) の説明を事務局からお願いしたいと思います。

○事務局　　本日の会議では第 2 回運営委員会でいただいたご意見、あるいは庁内で検討した結果をもとに修正いたしました「第二次練馬区放課後子どもプラン (素案)」につきまして、改めて委員の皆さんからご意見をいただき「第二次練馬区放課後子どもプラン (案)」に反映させていただきたいと思っております。なお、資料 1 について修正がございますのでお詫びとともにご説明させていただきます。資料 1 の 13 ページの運営委員会名簿についてです。

NO.3 の甲斐智重委員と NO.4 の中嶋エマ委員の肩書きですが、正しくは、甲斐委員が豊溪小学校 PTA 会長で、中嶋委員が富士見台小学校 PTA 会長です。以上 2 箇所修正をお願いいたします。学校名の記載を誤ってしまい大変申し訳ありませんでした。それでは事務局から詳細についてご説明させていただきます。

○事務局　　それでは、私、佐藤の方から、ご説明をさせていただきます。

お手元に資料 1 と資料 2 がお手元にあると思います。事前にお目通しいただいているかと存じますが、そのうちの資料 2、新旧対照表をもとに進めさせていただきます。それでは資料 2 をご覧ください。修正箇所についてのみここではご説明させていただきます。まず目次、「はじめに」というところをご覧くださいと思います。

【資料2 新旧対照表の説明】

以上、前回の素案からの変更点ということで、ご説明をさせていただきました。これらについては資料1に反映されております。また資料3ということで「児童放課後等居場所づくり（ひろば）事業実績」というものをご送付させていただきました。これは年度別に事業実績を集約させていただいたものです。こちらにつきましましては参考ということでお目通しいただければと思います。以上です。

○座長 ありがとうございます。それではこれから皆さんからのご意見等をお聞きしたいと思います。あるいはご質問でも結構です。ご質問については事務局でお答えいただきます。本日は最後でありますので、皆さんからご意見いただければと思います。

○委員 説明していただいたのですが、新旧対応表で、表の説明をしていただいたのですが、パッと見てどうも分かりにくい印象を受けます。資料3の方もむずかしいと思います。何度か読みましたが、自分たちが活動していても分からないというのが情けないのですけれど、このプランをわかっている人だけでなく、分からない人が読んだ場合には、もっと分からなくなってしまうかもしれないです。

○座長 確かにこのプランを分からない人が読んだ場合には、もっと分からなくなってしまうかもしれないですね。このご意見に対して事務局から、作成に当たり苦労したことやいろいろ考えたことなど、補足して説明することがあればお願いします。

○事務局 「分かりにくい」というご意見をいただいて大変恐縮です。ひとつ例を挙げて具体的にご説明させていただきます。

ひろば事業の実施の中の、ひろば事業の実施延べ日数、ひろば参加延べ人数については、どのくらいの規模でどのくらい実施されているかということで、前回、第2回の運営委員会の時にいただいたご意見をもとにまとめたものです。19年度につきましましては、16校分のひろば開催日数を合計したものです。実際にはスタート時期がそれぞれ異なっているので、またフルにやっているところ、そうでないところありますので、全体として、19年度16校で実施して1,516日の延べ日数、そこに参加した子どもたちは73,813人、1校1日あたり49人ということでそれぞれ20年度、21年度も同様にまとめさせていただいたところです。平均1校1日49人ということです。現実には19年度、20年度、21年度とそれぞれ9校、17校、15校とひろば事業を拡大していますが、4月から実施しているところ、1月から実施しているところでは、また、週5日のところもあれば、週1日のところもありますので平均ということでそれぞれ出しております。学校によってもっと利

用の多いところ、またはひろば実施日数が少ないなどの理由により、人数が少ないところもあります。そういった意味では、ここで上げさせていただいている数字は、「全体がこのくらいで平均がそれぞれ」ということです。また、21年度については、数字があまり増えていないところもありますが、これについては注釈にもつきましたように12月31日現在であるということと、さらに昨年秋の新型インフルエンザの影響でひろばを中止していることも多数ありました。そういった意味からも数として落ち込む、または数は増えているが割り返すと数字が落ちるとということもあります。全体を取りまとめた数字ということでひろば実施延べ日数、ひろば参加延べ人数を載せさせていただきました。

○座長 わかりました。それでは他の委員さんのご意見も聞いてみましょう。いかがでしょうか。

○委員 前回、人数を出してほしいというお話を私の方でいたしました。全体のだいたいのくらい、何パーセントくらいの子どもが登録し、そして日常的に何パーセントくらいの子どもがこの登録されている中からやってきているのかということが、この資料を見ることをわかります。よくあることですが、そうなるとその次に「じゃあ何年生が多いの？」と尋ねられるであろうということで、親切に学年別の内訳を資料3で出してもらったということで、これは資料として見ればよいのかなと思います。

資料の表の部分についても、一般的に疑問に思うだろうという部分の「1日あたりに平均してどのくらいの数の子どもが来ているのか」、「1校あたりに平均してどのくらいの数の子どもが来ているのか」と言うことが、大まかに把握することができますので、私が前回お願いしたことは、これで答えていただいているのかなと思います。さらに区役所で考えている年度計画があって、それが何年度に何校、いう数値があるので、これが分かりにくいところがあるのかもしれませんが、練馬区内の小学校数が現在69校で来年度から65校ということを知っていれば、これをみると「65校に近づいているのだな、おおだいぶ進んできたな、あと何校だな」ということがわかります。全体の校数がどのくらいあるのかということが、一般の方は知らない方も多いでしょうからちょっと分かりにくいところはあるのかなと思いますが、全体の校数をわかっているならば、全体の進捗状況が把握できるので、前回お願いしたことに対して十分答えていただいたものになっている。

○座長 実際に細かくみたいという要望に対しては、資料は細かければ細かいほどよい資料という見方もあるが、その一方で分からない方がパッと見たときに、見づらくなってしまいうという両面性もあるようです。資料の作り方としてはこれでよろしいで

しょうか。

○各委員 了解する。

○座長 では他のご意見をお願いします。

○委員 学童クラブの父母ということで学童クラブのことをお尋ねするのですが、今回の第二次の放課後子どもプランの基本方針の中に「放課後等の居場所をさらに充実する」ということで、ひろばに関してはかなり充実していくのかなという気がするのですが、「あわせて学童クラブの待機児の減少を図ります」を書いてあるのですが、実際に学童クラブの事業というのは新設というより移設されていって、同時に既存の施設がなくなっていくという考えでいられると思うのですが、その辺は実際に待機児の減少を図るっていう部分で、見えてない部分ではないかと思ひまして、何か具体的なプランとかがあれば教えてほしい。

○事務局 私どもは委託学童クラブの管理を担当しておりますので、お話をさせていただきます。資料1の4ページに「4 学童クラブの移設等整備」という表があります。この中で学童クラブ移設等整備数では、20年度工事3校、21年度工事5校というかたちで記載させていただいております。新たに学校内に設置をしたり、既設クラブをひろばと併設した形で作り直したり、既設クラブの増設をしていく中で、需要が少なくなったために廃止になったクラブもあります。それぞれ動きはある中で、新しい施設の設置にともなって受入の定員が増えております。そのことからトータルとして学童クラブの全体の定員が増えてはいるのですが、このあたりが資料としては出ていないのでなかなか分かりにくいと思いますが、結論としては学童クラブの全体の定員は増えております。

○委員 そうなると、ひろばと学童クラブはまったく別のものと考えているということでしょうか。

○事務局 現在は、ひろばと学童クラブがそれぞれの役割を果たして、連携という形で一緒に活動をしようという流れです。学童クラブはご承知のように生活の場という性格があるので、全くイコールのものとはならないと思っております。練馬区におきまして、現在は学童クラブとひろばは別のもので連携をしていくことで持ち味を生かしながら進んでいく、その中で放課後の安全な居場所づくりを皆さんで確保していきましょうという考え方です。

○委員 前回は出られなくて申し訳ありませんでした。資料2の2ページの課題のところ
に「学校応援団が安定したひろば事業を継続できるように、事業の担い手であるス
タッフや活動場所の確保が必要である」ということでマニュアルに出るかと思うの
ですけれど、正直言って現場でスタッフを集めること自体難しい状況にあります。
それから石神井小の場合には、全学年3クラスずつあって全部クラスが使われてい
る上に、難言のモデル校になっており、空き教室がない状態の中において、「場所の
確保」というものについて次年度のひろば事業の計画書を区に提出するにあたり、
学校の状況を確認したら「これ以上は無理です」と言われております。さらに視聴
覚室について、4、5月はひろば室で火曜・木曜・金曜を使っていますが、そのう
ち何日かが使われてしまうということで、ひろばが開けないような状況になってし
まいます。そういうときに、校庭か現在2つある学童クラブの他に、どこかひろば
室の設置が可能なかどうかを知りたいです。ひろばの開放日数を少しでも多くと
うことであるなら、行政といっしょに知恵を出し合っていければと思っています
が、そのあたりは今後どのようにお考えか教えていただきたい。

○委員 学童クラブについては、校内に学童クラブがないところを整備して、あわせてひ
ろば室もできれば整備するという方針で数年取り組んでまいりました。ある程度そ
のような整備が可能なところから着手してきましたが、今後も現在校内にないところ
が16校くらいあるので、これらについても校内に場所を求めたいと思っていま
すが、今お話いただいた状況の学校があることも状況として伺っております。では、
校庭内に作れないかということで今後も調整を図っていかないといけないと思っ
ていますが、建築するのにもさまざまな条件があります。例えば学校そのものが日影
規制などの建築法令に抵触していたりするので、なかなか校庭に建設が難しいとい
う状況があります。こうした課題が多くて簡単に進んでいないという実態がありま
す。

今、具体例を挙げてご説明いただいた石神井小については、2つ学童クラブがあ
りまして、入会者数も減ってきているという状況もあります。私たちもこのあたり
を注視しながら、一つの学童クラブに統合することができるようであれば、余った
施設を使っていただくことを含めて検討しなければならないと思っております。学
童クラブについては、待機が発生しているところと、逆に入会者数が減ってきてい
るところと状況がさまざまあります。これについては今後の推移を見ながら、適正
な利用という観点から検討を進めていきたいと思えます。ここに書いてありますの
で、これを推進力として整備を図っていききたいのですが、今のような課題や、区
の財政の状況を含めて、課題があるというのが現状です。

○委員 ありがとうございます。実は今石神井小学童クラブでは片方の学童クラブは障

害のある児童を預かっている。そうすると統合は正直不可能な状況になっていると思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○委員 お話のとおり、各学童クラブは、直営で2名まで、委託で3名までの障害児をお預かりしている状況があります。その数がありますので、障害を持つお子さんの数がオーバーしてしまうので、お話のとおり統合は簡単にいかないと思いますが、その辺の対応策を含めて今後検討していかなければいけないという認識ではあります。

○委員 近い将来においては、ひろば室を作るのが難しいようであれば、これからひろばをやろうと思っている学校において、場所がないからということで、なかなか「事業を行うふんぎりがつかない」というところもあるのではないかと思います。石神井小の場合はなんとか学校との話し合いの上で理解をいただき、視聴覚室を使えるようにしたのですが、その視聴覚室も地域の方も使うし、学校でも使うといった状況の中で、ひろば室に近い他の場所が使えるれば、いいなと思うのです。こういった場所の確保については、応援団と学校との相談において例えば図書室などを使わせてほしいといった相談をした場合に、校長先生等の判断でそういう図書室等の使用も可能なものなのではないでしょうか。石神井小はこの春で校長先生が退職で、副校長先生も5年在籍されているので、場合によっては、お二方とも変わってしまう可能性もある。その中で新しく来た校長先生、副校長先生との話し合いの中で自校において解決できることなのではないでしょうか。

○委員 非常にご協力いただき協力的な校長先生もいれば、残念ながらなかなか難しいな、という方もいらっしゃると思います。ぜひ私どもも交えていただきながら一緒になって調整させていただければと思います。

使える場所に関しては、今後ともなるべく使わせていただきたい、という方向でいかないと、なかなか日数も増えませんし、また授業のカリキュラムの組み方によっては今まで使えていたところが使えなくなるという可能性も出てまいります。といて今まで週3日できていたところが週2日しかできないよ、というのも子どもたちにとってはマイナスとなってしまいますので、他の場所が確保できる可能性があるのであれば、それは私どもも含めまして調整に入らせていただきますので、是非お声がけしていただければと思います。

どちらの学校もだいたい週1日からからはじめていただいております。

週1日のところもあれば、もう週5日やっていたところ、校舎の外の敷地内に専用の学童クラブ室と一緒に建物ができているところもあれば、校舎の中の部屋に、専用のひろば室が作れているところもあります。ただ、ほとんどのところが、なかなか場所がない中で、授業が終わったらその部屋をお借りしているとい

うことで片方では5日、一方では1日しかできないというように非常にムラが出てしまうことについて他からもかなり指摘をいただいているところです。なるべく実施日数を増やしたいというのはもちろんなのですが、そのための場所をどうやって確保していくかというのが今後とも検討を続けさせていただくことかと思っておりますので、引き続きご協力いただければと思っております。

○委員 さきほどお話がありましたように私たちのところもスタッフの確保に一番苦勞をしているところです。私たちの学校は同じ建物の中に学童クラブと学校応援団があります。先日も連絡会議を行いました。一緒にできているメリットはそこなのかなと思います。

来年度へ向けて開始時期の話し合いをしたのですが、ひろばの方は、例年は新1年生に関しては、6月に募集して7月1日から受け入れという形をとっていたのですが、大北小は同じ建物ですので、少しでも応援団として協力できることはということで、来年度は1年生を5月の連休明けに募集して、少しでも早くスタートしたいと思っています。

そうすることによって、協力して連携していけたらと話し合いをしています。

ただ、なにでスタッフが週に1回とか、1ヶ月に1～2回しかできない人が多いので、なかなかそこが大変です。

○委員 第二次放課後子どもプランの今の課題のところが一番が事業実施日数の拡充が必要であるという点において、ひろば事業も学校応援団もなかなか全校進まない、という状況ですけれど、その中において、夏休みとか春休みとか冬休みとか、全日とか全時間、というのではなくて、少しでも長い夏休みの間の何日間とか、1日の時間の午後の何時間とか、そういう時間からでも、それも視野に入れて、拡充していただけるといいのではないかなと思います。

それは働く家庭の親御さんにとっては一番気になっている部分でもありますし、あくまでも放課後子どもプランですから、学校の放課後というのが基本なのかもしれませんが、児童の待機解消の部分も含んでいるのであれば、そういった面も視野に入れて日数の拡充ということも考えていただくと、これはまだまだ先の長い話かもしれませんが、そういう部分も考えていただけたらいいかなと思いますので是非お願いしたいと思っております。

○座長 今は、学校がやっている間ということで、長期の休みとかは対象となっていない、ということなのでしょうけれども、今後の話として、方向としてはどうなのでしょう。

○委員 お手元のプランの 6 ページをお開きください。今後検討するという内容で書かせていただいておりますが、この 4 番です。「4 放課後等の居場所に関する新たな方策を検討します」としております。「放課後等の居場所」の「等」が入っております。この「等」というのは、三期休業中のあり方等も検討していくという意味も入っております。ただ、学校応援団につきましては、地域の方にご協力いただいて、まず放課後から、ということでスタートさせていただいております。これがまだ週 1 日しかできないですとか、なかなか人が集まらないというのが実態ということもありますので、まずはこの充実を図りながら、さらに休みの日も含めて、どういうやり方がいいかということを今後の計画の中での検討課題とさせていただければというふうに考えているところです。

○座長 委員さんの思いはこの「等」に含まれている、「等」の意味がちょっとわかりづらいかもかもしれませんが、そういうことですね。やるかやらないかは別問題ですけれども、検討課題だということに入れていただいているということですね。

○委員 今の「放課後等」についての関連かもしれないのですが、ここではひろば事業と学童クラブ事業だけの記載なのですが、当然ひろば事業をやっていると、開放事業も併設、並行してやっています、子どもが一旦家へ帰った後に再び学校へ来れば「開放」という扱いなのですが、その「開放」は同時にあるよということは、これを入れておかないと勘違いされる方もいるのではないかなと思うのです。「放課後」というのは、ひろばと学童だけなのかな、というように感じてしまうところもあるのではないかなという心配があります。これについていかがでしょうか。

○座長 今お話がありましたが、実は私の学校もそうです。父母の方が開放事業とひろば事業の区別が、どうもつかないところがあるようですので、開放事業についてこのプランに載せる、ということについてはいかがでしょうか。

○委員 このプランの中では、基本的には放課後等居場所づくり事業、いわゆるひろば事業と学童クラブ事業との関係だけに特化して、第一次のプランときから計画化しております。お話いただいたとおり応援団にやっただけのものには、開放もありますし、学校によりましては登下校の安全確保の事業もやっただけだったり、経験のある方々が例えば将棋教室などのような教室もやっただけしております。

ただし、それらのものについては、また別のものにおいて記載させていただければと思っております。

この放課後子どもプランについては基本的に学童クラブとひろば事業を中心に書

かせていただかないと、非常にわかりづらいものになってしまうと思います。第一次計画から第二次計画についても同じ流れの中でまとめさせていただいているものであります。

○委員　私は第一次計画のときも同じ話をしたと思うのですが、やはり受ける方は、これを見る方は、全部まとめて見ているので、どこかに一行でも何でも入れておいた方がいいのではないかと思います、さもないと「あれっ開放事業はどうなるのか」という受け止め方をすると思うのです。このままずっと開放を抜いて学童クラブとひろばだけの関係で行きますよ、というのは、考え方としてはそうなのですが、受ける方は「では、開放事業はどうなってしまうのか」となってしまうので、その辺は一考の価値があるのではないかと、そういうふうに思います。以後考えていただきたいと思います。

○座長　私から言うのも何ですが、放課後、開放で使っているというところもあるのですが、「開放とひろばとどちらを優先するのだろう」と衝突する時があります。そういうときには、ひろば事業の方が優先的に場所を確保していると思うのですが、その辺のところではトラブルが起こることもあると思います。茅根委員そういうことですね。

○委員　これを見た場合に、「開放はどこへ行ってしまったの」となってしまうことを懸念しています。

○座長　なるほど、一つ、私たちの耳に入ってきたのが、開放の方が「ひろばが優先で、ひょっとしたら開放の方がやれなくなるのかしら」という話が、そういう感覚があるので、そういう話に対しては、「そうじゃない」というところもきちんと言っておかないといけないのかなと思います。その辺を今回取り入れた方がいいのか、ということですね。

○事務局　これについては、今日のところお答えは出にくいのでこちらで引き取らせていただきたいのですがよろしいでしょうか。

○座長　よろしいでしょうか。

○委員　結構です。もう一点あります。「ひろばと学童クラブの指導員、スタッフの連携の充実をより図る」という、文言で書いてあるのですが、これは課題だと思うのですが、この「連携の充実」というのは言葉で書くと簡単ですが、では「実

際どうやって連携充実させるのか」ということになると、例えばどちらかがリーダーシップをとって、「あれをやろう、これをやろう」というようにやっていかなければならないかもしれないし、例えば本校の場合は、現状校庭は狭いが、校内に学童クラブはありますので、特に連携というか、毎日先生もスタッフも会っていますので、その中でたまに子どものことを話したりとかしていますが、ただ、学童クラブは学童クラブで、時間がひろばとは違うので、連携ができているといえはできているし、別物といえは別物ですし、もともと別物なので、それを連携させるというのが課題だと思うのですが、その連携というのが、どの程度のことが「連携の充実をより図る」ということなのかというのが非常に不明確なのですよね。実際やっても、そういうちゃんとしたものはないし、だけでも毎日日々流れているという状況です。イベントはたまにやりますけれども、その辺の連携という意味が非常に曖昧なので、何かいい言い方ありませんか。

○事務局　私たちも内部で検討している時に、連携のイメージがそれぞれ違うのです。ひろばが置かれている状況であるとか、学校内に学童クラブがあるのかそれとも外に学童クラブがあるのか、そういう条件によって、連携の姿も違うのだろうという話がありまして、連携の姿を「こういうことですよ」と書くと、逆に「ああ、その程度でいいのか」という誤解を招いてしまうこともあるかもしれないので、いろいろ検討はしましたが、結論として抽象的な「連携」という言葉でまとめざるを得ないということでこういうような表記になっております。

○委員　わかりました。では行政の狙いとしてはどのくらいを考えているのでしょうか。是非聞いておきたいのですけれど。

○事務局　豊玉南小については非常に実績を上げて先端をいっていると認識しております、また大泉北小でも、同じ建物の中にひろばと学童クラブがあるので、朝から日常的にスタッフと指導員が話し合いをしながらやられていると伺っております。最終的には、たくさん子どもたちが、ひろばなり学童クラブを利用して、安全な放課後の居場所づくりになればいいというのが究極的な目標だと思っています。そのため手段として、例えば一緒に事業をやるということが必要となってくるだろうと考えております。最終的には学童クラブ、ひろばのそれぞれの子どもたちが、たとえばひとつの校庭の中で一緒になって遊んでいる、飛び回っている、そういう姿を私たちはイメージしております。

○座長　どのようなイメージで学童クラブとの連携というイメージを持っているか、あるいはこうした方がいいよ、というようなものはありますでしょうか。こちらから質

問して申し訳ありませんがいかがでしょうか。

○委員　　うちの子供は学童クラブに行っているのですが、あまりひろばには参加はしていませんけれども、このプランを見ていて思ったのが、放課後は何時までなのか、と思ったのですが、これには時間は載っていませんか。

○事務局　　基本的に夕方の放送が流れる、あの時間帯をイメージしております。

○委員　　ありがとうございます。応援団の方についても、私が保護者会へ行ったりした時に見るのですが、大きな目立つものをして子供たちを見守っていただいて、時には厳しく叱っているところも見たり、また怪我などをした子供に対しては「大丈夫？」などと声をかけるのを見たりしております。その中で私が応援団というものをやったことがないので、どれだけどんな風に変で、その中でも人の確保はもちろん大変と思うのですが、その人の確保においては、ボランティアという形で保護者の方は参加されているのでしょうか。

○委員　　有償ボランティアでやっています。

○委員　　すいません、そんなことも知らずにこの委員会に参加しており、申し訳ないのですが、子どもが好きな人がやっていると思うが、どんどん子供も難しくなってくるし、その中で人の確保がどうなのかなと心配で、これも確認ですが学校に通っている児童の保護者の方だけでやっているのではないのですね。

○座長　　保護者の方がメインになっている学校もあれば、そうではなく地域の方が多い学校もあります。今は保護者の方が多いのでしょうか、いかがでしょうか。

○委員　　保護者の場合は子どもの卒業とあわせて卒業してしまうケースもあります。

○座長　　スタートは保護者の方が多いでしょうけど、ただ、一般公募しようかという話があったときに、応募した方がどんな方かが分からないのに、地域の方で「断るわけにはいかないかな」という話があって、何を基準にお断りできるものなのかとか、やってほしい人もいればやってほしくない人もいますので、いろいろスタッフにもいるかもしれませんので、その辺の微妙なところがあるので、今は保護者の方が最初が多いのかな、PTAを卒業した後とかでしょうか。そのへんはいかがでしょうか。

○委員　　大泉北小では、保護者の方に「説明会をします」というお便りを出しています。

「募集します」ではなくて、こういうことをやっていますので興味のある方はいらして下さいということで、2日間、時間を決めて行います。

謝礼は1時間840円ですと書くと、けっこう問い合わせが着ます。ただ、謝礼は活動している時間だけで、ボランティアとしてその前に早く来なければいけないし、終わった後の片付けや反省会もあります。

そのことを理解していただいて、納得していただきメンバーで話し合い、お願いするという形をとっています。

今までは、地域中心で運営してきたのですが、これからこの活動を続けていくためには若い人や保護者の人を育てていかないとつながっていきません。

○座長 小学校の先生としての立場から学童クラブへの連携等についてお話いただければと思いますがいかがでしょうか。

○委員 本校は学童クラブが離れているので、実際は連携をしていないと思います。今一番不思議だなと思っていることは、例えば2月なんかですと開放は4時半までで、応援団は5時までなのです。校庭で遊んでいると30分のズレがあるのですね。これをなんとか一本化していただけないでしょうか。まあこれは3月には5時までになるので、2月くらいなのでしょうけれども。こういうのはなぜ区で一本化できないものかなと不思議に思っております。

○事務局 校庭開放とひろば事業の終わる時間については、各学校応援団の方でそろえるような形で調整をさせていただいております。実際に大泉北小や豊玉南小では17時でそろえていただいております。是非ご参考になさってください。

○座長 それではお話ししていただいている委員さんもいらっしゃいますので、中嶋委員さん、ご意見あればお願いします。

○委員 特にこれっていうのはないのですが、富士見台小学校ではこどもひろばが始まったばかりで、今月から週2回にやっとなりました。一応まだプレオープンということで12月から始まりまして、1月からは週2回、4月からは週3回というふうに徐々に増やしていくことにしています。当然学童クラブさんも併設されていますので、連携をとっていかないとかなきゃとはなっているのですけれども、今度4月からは学童クラブが委託に変わりますので、今の指導員の方から委託の方への引継ぎが終わってから、今後連携を徐々に深めていかなければいけないな、ということは話に出ております

またこれは、くだらないことなのですが、一つ問題というか、学童クラブにはおやつのある時間がある、でもこどもひろばはない。そこで学童クラブの子が「おやつあ

げるよ」と言って広場で遊んでいる子供を呼んで陰で食べる、そういうようなことが少しあったりしているので、それも学童クラブさんとも話していかなければいけないのかなと思ったり、子供は、悪気はないので、お部屋に入って食べるのであろうということで、それは正直、私どもは全く想定してなかったことなのですが、子供がひろば室へ入ってきてムシャムシャ食べていたのを叱られていた、というのがついこの間起こっていました。

あと学童クラブを卒業していく方で、いらなくなったおもちゃを寄付されるのですが、例えばローラーブレイドやホッピングなどを学童クラブの指導員にそのことを伝えているか伝えていないのが微妙なのですが、ぼんと置いていかれるのですが、ひろばへ来ている子どもたちが使いたいという、本当に微妙なことなのですが、いろんなことが起こるんだなというのを今実感しているところです。先ほども申し上げたのですがそういう細かいことも今後少しずつお話を詰めていかなければならないのかなと思っています。

○事務局　今お話いただきました、おやつの件ですとか、ローラーブレイド、ホッピングの話ですけれど、あつてはならないことです。学童クラブではおやつは自分たちの部屋で食べるように指導しておりますし、それを友達だからと分けるということは、それ自体が良くないことです。そのことは私どもの方でも注意いたします。

○委員　連携ということについて、今回こういう会議があるということで、うちの学童クラブの指導員の方に連携のことについて何かあったら FAX くださいね、という話をしたところ、指導員から FAX をいただきまして、その内容が「連携といっても自然体で助かっています」という回答だったのです。今のおやつの問題とかそういうものは別にしまして。「学童クラブの子どもの室内の遊びはクラブ室で十分できますし、さらに校庭でひろばの子どもと一緒に十分に遊ぶことができますので、その今の形のままだよいいのではないかと思います」という、自然体に、ひろばの子どもではなくて、学童クラブの子どもではなくて、そこでもって校庭で遊ぶと。一方、ひろばのスタッフにも聞いたら、学童クラブの方から、ひろば室の方へはスタッフはまだ遊びに来てないのだそうです。いろいろ取り決めとかしたのですが、ちょっとまだ手が足りないなどそういうことがあって、スタッフ同士は校庭だけで係っているような、そのままの方が、学童クラブさんの方も、今までと同じような係わり方で、学童クラブのお子さんが上級生に遊んでもらったりして喜んでいるという、自然体という言葉が出たので、今までの中における「自然体」、子供同士が遊んでいる、それがいいのかなと、FAX をいただいたものを見まして、少しそういうことを感じました。

○座長 副座長何かお願いします。

○副座長 こんにちは。遅くなり申し訳ありません。私からは、さして質問という部分はないのですが、このプランを見させていただきまして、この案は素晴らしいと思うのですが、このプランの中に「安全安心」という、これは一番大事ではないかと思うのですが、それについての記載というのがほとんどうたわれていないように見えます。やはりスタッフの方は安全安心というのは非常に気になることで、それは子どもが一つの部分にまとまるわけですから、そういう部分も少しくたっていただけますと、スタッフの方たちもこれを見た人も安心できると思うので、記載があるとありがたいです。具体的にどんなことかと言われましても、ちょっと言葉に出せませんけれども、そういうことを記載していただけるとありがたいかなと思っております。

○座長 1 ページ目の「はじめに」というところの7行目あたりに、学校応援団の設置の趣旨といったことが記載されています。「地域の方々の見守り、ふれあいの中で子ども達が安全・安心に過ごすことができるように、PTA、青少年委員、町会・自治会などと協力を得て小学校に学校応援団を設置し、」ということで、安全安心にも配慮してこういうことを考えていますよということではじめの方に書かせていただいています。

○委員 5 ページの「I 基本方針」をご覧ください。学校応援団の設置目的は大塚課長が話したとおりなのですが、放課後子どもプラン自体の目的が「子どもたちが安全・安心で楽しく過ごし、本来持っている主体性や自発性、創造性を伸ばすことができるように」とあるように、子どもたちが安全・安心であることを目的にこれをやるのですよ、としております。ご理解いただければと思います。

○座長 先日、2月9日に学校開放委員長、学校応援団長会議というのがございまして、その時に長い時間をかけて丁寧に説明していただきました。その中の資料として、各ひろばのお便りなども具体的に載せていただいていたのですが、そのお便りの中でひろばと開放の違いについて、どう違うかということ載っており、これを見ると皆さんが理解できるようなのかなと思いました。先ほどもいろいろ質問がありましたけれども、こうやって各ひろばで自主的にお便りなどで皆さんにご理解いただく方法もあるんだと、そのような努力のあとも見えますので、是非ご参考にいただければと思います。

○委員 今年度最後だということで、先ほども出ましたけれども、学校の先生方にこの事

業を理解していただきたい。やはり学校の理解なくしては、私たちは成り立たないと思っています。その中で先ほども言われたように校長、副校長が代わったりすると対応が違ったりということは他の学校でもよく聞くことです。放課後の校庭開放とかやっても感じることは、校長先生、副校長先生が理解をされていても、一般の先生方が「ひろばってなあに」というような状態であったりします。校長先生たちが学校の中できちんと説明をしてくださることだと思えるのですけれども、その辺がうまくいかなかったりということがあります。学校アンケートに「先生方、もう少し学童クラブやひろばにもう少し関心を持ってください」ということを書いたのですけれども、もう少しいい意味できちんと分かっていたいただきたいと思ひますし、来年度へ向けて先生が代わっても今と対応が変わらないようにぜひお願いしたいと思ひます。

○座長 委員、一言いかがでしょうか。

○委員 区立の学校でありますので、区の方針を受けてやっていくというのは当然のことですし、それについて職員に周知徹底させるということも大事なことだと思っております。

ただ、理解があるとかないとかということをもンといわれてしまうと困ってしまうのですが、学校によって条件も違います。われわれのやらなくてはいけないこと、本来の目的というのは、学校教育が第一ですので、それとの兼ね合いというのが当然出てまいります。場所の問題も先ほどありましたが、今度大きなテレビも入るのですね、いわゆる電子黒板というのですけれども。今度それを置かないといけない、となると置く場所を作らないといけない、そうすると今までひろばで使っていたところはどうしても置かないといけない、なんていうこともあるのですよね。そういうことで単純に理解のあるとかないとか、新しいものを受入れないというわけではないのですが、当然受けるべき教育が阻害されてもいけないですし、新しい施策が果たすべき役割というのもよくわかっていますし、うまくその兼ね合いをやりながら、そして職員の理解を得ながら、ということがありますので、なかなか石頭ばかりではございませんが、いろんな条件の中でやらなければなりませんので、それぞれの校長がきっと考えてやっていると思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○座長 皆さんの方からご意見もらいましたけれども、まだまだこういうことが話し足りない、ということはあると思いますけれども、時間の制約もございしますので、一応皆さんからのご意見をいただきまして、これを参考に事務局の方でまとめていただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。それでは、続きまして今後の

スケジュールについてということを進めさせていただきたいと思います。それでは事務局の方からよろしく願いいたします。

○事務局　本日は熱心にご意見いただきまして、どうもありがとうございました。ひとつ宿題ですね、開放事業とひろば事業の関係について記載していただきたいというご要望もございました。これについては、私たちの方で検討させていただきたいと思います。

その他にもいろいろご意見いただきました。参考にいたしまして「第二次練馬区放課後子どもプラン」の策定を3月中には終えたいと思っております。

また、今年度の放課後子どもプラン運営委員会につきましては、座長からもおはなしをいただいておりますけれども、本日をもって事実上終わりということでございます。一応皆様の任期は3月まででございますけれども、今後は第二次練馬区放課後子どもプランの効果的な事業運営、事業計画を円滑に推進するという観点から、来年度以降も引き続き運営委員会を設置してまいりたいと考えております。それぞれの団体におきまして22年度また改めて推薦等をお願いすることと存じます。また再任は妨げないという規定にもなっておりますので、引き続き委員をお願いするという方もいらっしゃるかと思います。運営委員会の開催につきましては、だいたい年間3回程度を考えております。また、いろいろご意見等を賜ればと思っております。

もう一度繰り返しますけれども、今年度の運営委員会につきましては本日をもって終了させていただきます。誠にどうもありがとうございました。

○座長　また平成22年度につきましては、また区の方からご連絡があらうかとおもいますので、その時はひとつよろしく願いします。それでは本日の議題は全部終了いたしましたので、これで終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。